総合理工学府

Ⅰ　教育の水準　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　教育 29-2

Ⅱ　質の向上度　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　教育 29-4

Ⅰ　教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目Ⅰ　教育活動の状況

〔判定〕　期待される水準にある

〔判断理由〕

観点１－１「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

○　東アジアを中心に留学生を受け入れており、修士課程及び博士後期課程を合わせた留学生の割合は平成 21 年度の 12.3%から平成 27 年度の 19.0%となっている。この国際化に対応するため、教育の質向上支援プログラム（EEP）等を活用し、教職員のグローバル化対応力の向上に取り組んでおり、英語による授業や留学生への事務対応、配付物の英語化等を推進している。

○　先端的な研究に立脚した教育を充実させるため、平成 25 年度にエネルギー基盤技術国際教育研究センター、平成 26 年度に超顕微解析研究センターを新設している。

観点１－２「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

○　学府共通科目、横断授業科目、副専攻科目、キャンパスアジアプログラム科目、研究留学生優先配置プログラム（IEI プログラム）科目、グリーンアジアプログラム科目等により、グローバルに活躍できる広い視野を持つ教育と、講義の英語化に取り組んでいる。特に、キャンパスアジアプログラム、IEI プログラム、グリーンアジアプログラムはすべて英語で実施している。

○　クォーター制を導入し、多様な学生の能力と必要性に応じた講義を行っている。

以上の状況等及び総合理工学府の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ　教育成果の状況

〔判定〕　期待される水準にある

〔判断理由〕

観点２－１「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

○　平成 22 年度から平成 26 年度における修士課程の標準修業年限内の修了率は平均約 93%、博士後期課程は平均約 58%となっている。

○　国際学会や各種コンペティション等での学生の受賞件数は、平成 22 年度から平成 24 年度の平均で 29 件となっている。

観点２－２「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

○　平成 22 年度から平成 26 年度の修士課程修了者の就職希望者の就職率は約 98%、博士後期課程修了者は約 86%となっている。

○　就職先等の関係者へのアンケートの結果では、「専門分野の知識がしっかり身についている」や「知識や情報を集めて自分の考えを導き出す能力がある」等の６項目で関係者の７割以上から肯定的回答を得ている。

以上の状況等及び総合理工学府の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ　質の向上度

１．質の向上度

〔判定〕　質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

○　第２期中期目標期間（平成 22 年度から平成 27 年度）に採択された３つの国際教育プログラム（キャンパスアジアプログラム、大学院博士課程リーディングプログラム「グリーンアジア国際戦略プログラム」、研究留学生優先配置プログラム（IEI プログラム））を実施している。平成 27 年８月にはキャンパスアジアプログラムのサマースクールに学生 33 名が参加している。また、平成 27 年度のグリーンアジア国際戦略プログラム、IEI プログラムの入学者選抜試験にはそれぞれ 11 名が合格している。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

○　平成 22 年度から平成 26 年度の修士課程修了者の就職希望者の就職率は約 98％であり、博士後期課程修了者の就職希望者の就職率は約 86％となっている。就職先等の関係者へのアンケートの結果では、「専門分野の知識がしっかり身についている」や「知識や情報を集めて自分の考えを導き出す能力がある」等の６項目で関係者の７割以上から肯定的回答を得ている。

これらに加え、第１期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。